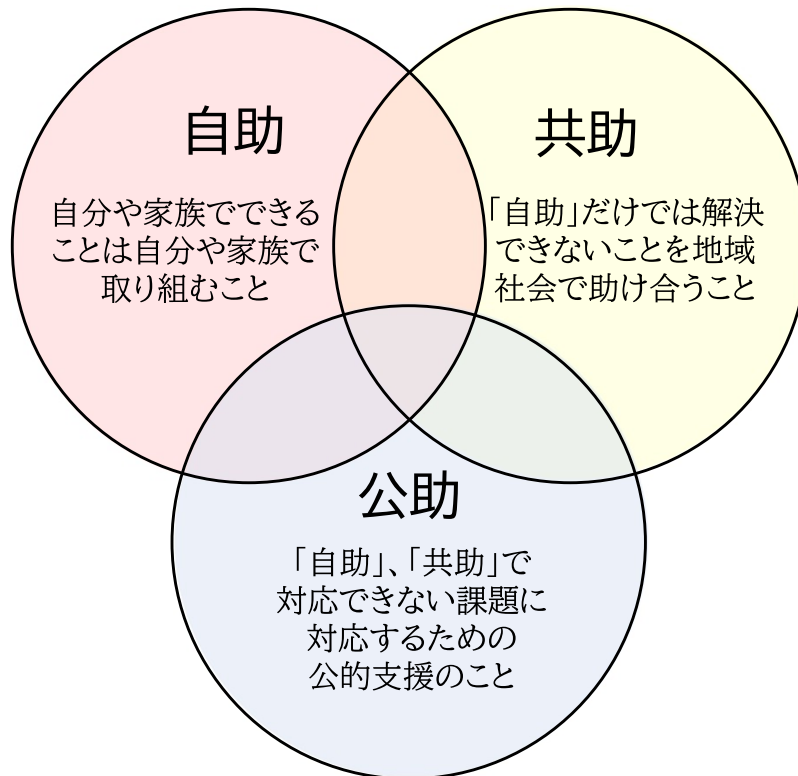


6

具体的な取組み

「支え合うところあふれるまち」をつくるには、「自助」「共助」「公助」の3つの要素が、それぞれ補い合い、重なり合いながら、バランスを保つ視点を持って、取組みを進める必要があります。

【自助、共助、公助の意味】



特に、「自助」「共助」は、地域住民等による主体的な関わりが欠かせません。そのための意識を育み、一人ひとりの行動や活動が生まれる地域づくりを、地域住民等、市社協、市がともに進めていく必要があります。

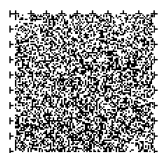
次ページ以降に、取組項目ごとの取組みについて、地域住民等、市社協、市がそれぞれに、または協働して行う取組みを整理しています。記載にあたっては、地域住民等ができること、市社協や市が取り組むことがわかりやすいように、以下のとおりマークをつけています。

【マークの表記について】

地 地域住民等(※)ができること
 ※地域住民、地域を支える組織・団体のこと

社 市社協が取り組むこと

市 市が取り組むこと



「福祉」は「ふだんのくらしのしあわせ」のことだと言われます。そのため、「福祉」を考えることは、誰もが自分らしく暮らすことのできる地域について考えることにもつながります。年齢や性別、価値観や考え方などの多様性を認め、地域の人たちと支え合っていくことの大切さへの理解を深める取組みを進めます。

取組みの方向性	具体的取組み
「ふくし」が育まれる、福祉教育の推進	<p>地</p> <p>地</p> <p>社</p> <p>市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域や活動に興味を持つ。 ・近くで行われる研修などに積極的に参加する。 ・学校や企業などに職員を派遣し、福祉教育を推進する。 ・地域等に「出前講座」を行い、自主的に行われる福祉に関する学習を支援する。
お互いを尊重し合う意識の醸成	<p>地</p> <p>地</p> <p>社</p> <p>市</p> <p>社</p> <p>市</p> <p>社</p> <p>市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際シンボルマークやヘルプマークについて知り、身につけている人を見たら必要に応じて手助けする。 ・若い世代が興味関心を持つテーマで講座等を開催し、若い世代へ地域貢献活動の意識醸成を図る。 ・多様性のある社会に関する広報・情報発信を行い、誰ひとり取り残さない地域づくりを進める。 ・多言語による情報発信や相談対応を実施する。

Voice!

地域のみなさんの声

信頼関係は長い時間をかけ、つながりの中で生まれてくるもの。日常の中で、気掛けてくれる人が周りにいてくれることは、とても大切です。

障害者就業・生活支援センターぽるて

福祉は高齢や介護、施設といったイメージ。遠い未来のことで、自分事として捉えることが難しいです。でも、知ることで協力できる幅が広がると思います。

久留米工業大学生

「できそう」ではなく「楽しいこと」から、「一人でもできるような小さなこと」から始めたいです。

西圏域ワークショップ参加者



(写真:西圏域ワークショップの様子)

どのような状況・立場の人であっても、住み慣れた地域で安心して生活できるように、成年後見制度などを活用しながら、本人の意思決定を尊重した権利擁護支援を充実させます。また、部落差別や、子ども・女性・高齢者・障害者・性的少数者・外国にルーツを持つ人等へのあらゆる差別をなくす取組みを進めます。

取組みの方向性	具体的取組み
本人の意思決定を尊重した権利擁護支援	<p>地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を尊重するために、まず相手を知る。 <p>社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度や日常生活自立支援事業についてわかりやすく伝え、制度利用を支援する。 <p>社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援を円滑に行うネットワークを強化する。 <p>社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身寄りのない人が安心して入所、入院できる環境整備を行う。 <p>社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に対する市民の理解を促進する取組みを行う。
人権尊重とあらゆる差別の解消	<p>地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くで行われる研修などに積極的に参加する。 <p>地 社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別や虐待の防止に向け関係機関と連携して相談体制を強化し、早期発見を図る。 <p>地 社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する各種研修・広報などを通じて、人権に対する正しい理解を広める。 <p>社 市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定職業従事者として、高い人権意識を持ち、差別解消のために行動する。 <p>市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等、住宅の確保に配慮を要する人に対して、居住支援協議会や不動産事業者などと連携した居住支援を行う。

Voice!

地域のみなさんの声

誰でも加齢とともに体が不自由に。「お互い様」の経験値を高め、想像力を持つことが、差別をなくすことにつながります。

久留米市障害者差別をなくす会

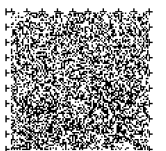
人権とは人を大事にすることで、すべての人の権利のこと。
優しいまちは生きやすいまちです。

久留米市民生委員児童委員協議会会長

自分の価値観を押しつけず、人の良いところに視点を向けるようにしています。

北圏域ワークショップ参加者

(写真:民児協会会長ヒアリング時の様子)



「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが地域活動に参画していく地域をめざします。そのために、現在、地域の福祉活動やボランティア活動を行なっている人や団体、企業を支援するだけでなく、新しく活動に参加する人や団体、企業が増えるようなきっかけづくりを行います。

取組みの方向性	具体的取組み
社会福祉法人や企業との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 地 地域にある社会福祉法人や企業の活動に興味を持つ。 地 社 市 地域住民等と社会福祉法人、企業が出会い話ができる場や関係性をつくる。 社 市 社会福祉法人に対し、公益的な取組について、助言や情報提供を行う。 社 市 企業の社会貢献活動と地域課題のマッチング機能を担う中間支援団体との連携を強化する。 社 企業や店舗と協力し、フードドライブ活動を進める。 市 企業の地域貢献が、社員の意識向上にもつながるような、新しい企業と福祉との関係性をつくる。 市 市の入札で協力雇用主の受注機会の増大を図り、保護観察対象者等の就業機会の確保を推進する。
一步踏み出せる多様な参加機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> 地 様々な集まりや行事・活動に周囲の人を誘って参加する。 地 社 市 地域活動にとって貴重な財源である「赤い羽根共同募金運動」等に協力する。 地 社 市 「役に立てるかもしれない」「それなら手伝える」と思えるような広報の工夫をする。 地 市 市民活動を持続可能なものとするため、活動団体の多様な財源確保を支援する。 社 ボランティア活動に役立つ情報提供やボランティアの紹介等を行い、ボランティア活動をサポートする。

Voice!

地域のみなさんの声

実際に参加してみると、「これくらいならできる」と自信にもなるし、楽しい。「小さなことができることがある」と知れば「それなら手伝える」という人は多いと思います。

『ちょいボラ』参加者

地域貢献は法人としても望んでいるところ。地域あつての自分たちで、知ること協力ができる幅が広がります。

メゾンマリア
(ライフレスキュー久留米連絡会登録法人)

(写真:キッズクラブ(メゾンマリアこども食堂)の様子)



地域住民同士のつながりが弱まりつつある中で、困りごとを抱えた人や世帯を早期に発見し、支援につなげられるよう、多様な見守り活動を促進します。また、幅広い世代の方たちが気軽に集い、交流できる居場所づくりを進めます。取組みを通じて、普段から地域住民同士が顔見知りの関係を築き、声をかけ合える地域をめざします。

取組みの方向性	具体的取組み
多様な見守り活動による 支え合いの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの人と安心して話ができる関係をつくる。 ・支え合い推進会議の取組みから、地域の特性に合わせた支え合いをさらに推進する。 ・「ふれあいの会」等による見守り訪問活動を促進する。 ・地域住民等、事業所と市で協力し「くるめ見守りネットワーク」をさらに推進していく。
出会い、交流 できるつながり の機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある分野の活動に参加する。 ・多世代が交流できる居場所づくりを進める。 ・「ここにいていい」と感じられる居場所をつくる。 ・校区社協と協力し、いきいきサロン活動を推進する。 ・地域住民等が「取り組みたい」「やってみたい」と感じる地域活動の実現を支援する。 ・参加支援事業等を通じて、地域住民同士がつながり合える機会をつくる。

Voice!

地域のみなさんの声

大きくなると自分から地域の人に関わりに行けなくなりました。地域の方の顔を知らないで、こども食堂のように、人と関われる集まりがもっとあるといいな。

祐誠高校生(かみつ子ども食堂ボランティア)

居場所とは、「仲間・つながり・人との時間のこと」だと思います。

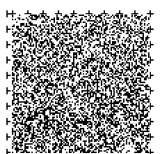
NPO法人 未来学舎

まちの至るところに「おしゃべり居場所」がある地域になるといいな。

中央圏域ワークショップ参加者



(写真:中央圏域ワークショップの様子)



地域の防災力を強化するため、防災意識の啓発や図上訓練の実施などを通じて、平時から非常時を想定した支え合いの仕組みづくりを行います。また、避難に配慮を要する人が災害時に安全かつ確実に避難できるように、取組みを進めます。

取組みの方向性	具体的取組み
日常の備えから始める地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から家族や地域で防災について話をする。 ・地域で行われる防災訓練や研修に参加する。 ・地域全体の防災力向上をめざす。 ・非常時の災害ボランティアセンター運営のため、災害NPOなど多様な主体と、平時から連携体制を構築する。 ・図上訓練や防災に関する「出前講座」などを通じて防災への意識を高める。
避難に配慮が必要な人の避難支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から声をかけ合える関係をつくる。 ・地域住民等、支援関係機関と連携し、本人の事情に合った「災害時マイプラン」を策定する。 ・福祉避難所の実効性を高めるために開設訓練を実施する。 ・避難行動要支援者と近隣住民等がお互いに知り合う機会をつくる。 ・避難行動要支援者名簿登録制度の周知を進め、登録率を上げる。

Voice!

地域のみなさんの声

災害時の問題は、言葉の壁より孤立感。非常時につながりがない場所で孤独を感じるのは、みんな一緒です。日々あいさつを交わして顔を覚えてもらっている安心感が、非常時に生きるはずです。

久留米大学 外国語教育研究所 准教授

災害時は、こどもの居場所がないんです。平時から使えるこどもの居場所があれば、災害時も自然とそこに集まれるようになると思います。

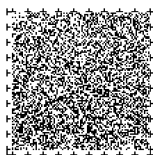
雲遊寺



(写真:久留米大学 外国語教育研究所 准教授 ヒアリング時の様子)

災害時に、頼ることができる人がすぐ来てくれる地域だと安心。

中央圏域ワークショップ参加者



困りごとや生きづらさを抱えながらも、誰にも相談できない、どこに相談したらいいのかわからない人・世帯などに対するアウトリーチ(※)の手法を取り入れた伴走型の支援を推進します。

また、狭間の課題を抱える方・世帯にも支援を届けられる包括的な仕組みを構築します。

※アウトリーチとは、対象者を把握し、さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を積極的に届けることをいいます。

取組みの方向性	具体的取組み
地域住民等と協働した支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 地 ・できる範囲で相談を受け止め、必要な支援につなぐ。 地 社 市 ・制度以外の社会資源を創出し、つながりや支援の選択肢を増やす。 地 社 市 ・非行や犯罪をした人の立ち直りのため、国、県、保護司、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等と連携して再犯防止の取組みを進める。 社 市 ・重層事業を通じ、分野を超えて、地域住民や多様な主体との連携を促進する。 社 市 ・「住民に身近な圏域」で多分野の関係者がチームとなり、地域課題を話し合い解決につなげる取組みを進める。 市 ・民生委員・児童委員、保護司会の活動を支援する。
本人の思いに寄り添った伴走型支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> 地 ・地域や近所で悩みを抱える人に対し、声をかける。 地 社 市 ・生きづらさを抱える人の強みや願いに着目した支援を実施する。 社 ・必要な支援が届いていない人や世帯へ、手紙やSNSなども活用したアウトリーチの機能を充実する。 社 市 ・重層事業等を活用して、支援関係機関等の連携を強化し、一人ひとりの課題に応じた適切な制度や支援、保健医療・福祉サービスにつなぐ。 市 ・生活困窮者自立支援事業などを支援関係機関等と連携して実施し、生活困窮や居住、就労などの課題解消に向けて支援する。

Voice!

地域のみなさんの声

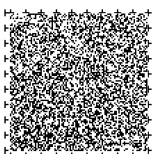
働きたいけど、どうしたらいいのかわからなかった時に、「どんな仕事がいいのか、どんな働き方がいいのかを、一緒に探していこう」と言われて不安が減りました。

重層会議で取り上げたケース当事者

誰かに話すことで、辛さや悲しみを手放せることがあります。今必要でなくても、「話せる場所がある」と知っておくことが、こころのお守りになるんです。

久留米グリーンフケアcafe～やすらぎの部屋～

(写真:久留米グリーンフケアcafe代表ヒアリング時の様子)



「みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ」をめざして 取組項目ごとの地域住民等ができる具体的取組み

一人の住民として、または、地域の活動としてできる具体的取組みの例をまとめました。

あなたなら何ができそうですか？

※ 資料編(24ページ～29ページ)にも取組み例を載せていますので、あわせてご覧ください。

お互い様の精神で、互いの違いや事情を認め合う地域をめざしたいです。
(北圏域ワークショップの声)



1 ともに生きるこころを育む取組みの推進

関連が深い「キーワード・ニーズ」①・③・④

「ふくし」が育まれる、福祉教育の推進

- ・自分の住む地域や活動に興味を持つ。

方取
向組
み

お互いを尊重し合う意識の醸成

- ・国際シンボルマークやヘルプマークについて知り、身につけている人を見たら必要に応じて手助けする。

自分自身が価値ある存在だと思えるまちにしたいです。
(中央圏域ワークショップの声)



2 権利を守る取組みの推進

関連が深い「キーワード・ニーズ」③・⑧・⑨

本人の意思決定を尊重した権利擁護支援

- ・本人の意思を尊重するために、まず相手を知る。

方取
向組
み

人権尊重とあらゆる差別の解消

- ・近くで行われる研修などに積極的に参加する。

まずは自分が地域行事に参加して、楽しかったことを周囲に伝えたいな。
(中央圏域ワークショップの声)



3 福祉のまちづくりへの参画促進

関連が深い「キーワード・ニーズ」②・④・⑤

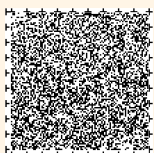
社会福祉法人や企業との連携・協働

- ・地域にある社会福祉法人や企業の活動に興味を持つ。

方取
向組
み

一歩踏み出せる多様な参加機会の創出

- ・様々な集まりや行事・活動に周囲の人を誘って参加する。



第2期プランの「キーワード・ニーズ」 ※11ページより

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| ①
人と人、地域の
つながりの大切さ | ②
相手に届く
情報発信 | ③
相手の立場を
想像する | ④
地域へ参加
できるきっかけ | ⑤
地域活動を楽しい
と感じられる |
| ⑥
居場所がある
ことの安心感 | ⑦
災害に備えた
日頃からのつながり | ⑧
相談がしやすい
環境づくり | ⑨
あらゆる課題へ
対応できる体制 | |

4 見守り活動・交流の場や居場所づくりの推進

関連が深い「キーワード・ニーズ」①・⑤・⑥

多様な見守り活動による
支え合いの推進

- ・近くの人と安心して話ができる関係をつくる。

方
取
組
み

出会い、交流できる
つながりの機会の創出

- ・興味関心のある分野の活動に参加し交流する。

地域で活動することが、負担なく楽しい時間になるといいです。
(西圏域ワークショップの声)



5 災害時支援に備えた取組みの推進

関連が深い「キーワード・ニーズ」②・⑦・⑧

日常の備えから始める
地域防災力の向上

- ・普段から家族や地域で防災について話をする。

方
取
組
み

避難に配慮が必要な人の
避難支援の充実

- ・ふだんから声をかけ合える関係をつくる。

町内対抗で避難訓練大会ができれば楽しそう！
(南圏域ワークショップの声)



6 包括的な相談支援の推進

関連が深い「キーワード・ニーズ」⑥・⑧・⑨

地域住民等と協働
した支援体制の整備

- ・できる範囲で相談を受け止め、必要な支援につなぐ。

方
取
組
み

本人の思いに寄り添った
伴走型支援の実施

- ・地域や近所で悩みを抱える人に対し、声をかける。

福祉と意識せずに支え合えて、相談できる場所が近くにある安心感があるといいです。
(北圏域ワークショップの声)

